総合心療センター 精神科

センター長　戎正司

【診療体制】

2022 年は、コロナ禍となって 3 年目に突入し、その勢いは止まることを知らず、人と人の接触や交流の機会を制限し続け、関係性の希薄化や孤立が長期に亘り続いたため、世間では閉塞感が漂う雰囲気で始まりました。そして 2 月には、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発し、第三次世界大戦となり核戦争が起きるのではないか、という人間の持つ攻撃性や破壊性に対する不安や恐怖、それに対して何もできない無力感が漂い、7 月には安倍元首相の狙撃事件が起きてしまいました。それらが重なることで、従来の秩序や構造が破綻して世の中が混沌となり、未来の展望が描けないという 1 年間だったように思います。

2022 年の精神科の医師の診療体制は、4 月から非常勤の船越洋子先生が復帰して週 2 日の外来診察を担当してもらうことになり、一方で、常勤の町野文規先生が 6 月から総合内科に異動となりました。

病棟の診療体制では、コロナの影響もあり病床稼働率が低下したことによって、看護師の配置が減るなどの苦しい状況でしたが、スタッフ一丸となってコロナ対策に取り組み、なんとかクラスターを出さなくてすみました。また県下の精神科病院で次々とクラスターが発生したため、県からの要請で、精神科救急の輪番の回数を増やしたり、クラスターが発生した精神科病院に当科の看護師が応援に行ったりすることで、苦しい状況の中、地域の精神科医療に大いに貢献できたのではないかと思います。

外来の診療体制でも、コロナ対策で苦労しながらも、外来診療、訪問看護、デイケア、薬剤師による薬剤指導、外来作業療法、管理栄養士による栄養指導、受付事務、など各部署の努力で多様な患者さんのニーズに対応できたのではないかと思います。

2023 年はどんな年になるか余談は許されませんが、一方的に情報を発信し伝達するのではなく、受け取る側の気持ちも考え、互いに成長と変革をもたらすような相互交流によるコミュニケーションを大切にして、質の高い価値のある精神科チーム医療を患者さんや地域社会に提供していきたいと思います。